

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300154		
法人名	有限会社介護サービス羽ノ浦看護婦家政婦紹介所		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町宮倉原ノ内40番地		
自己評価作成日	平成24年7月17日(火)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

段々と重度化してくる利用者様にも、個々に対応し、その人らしい生活が送れるように心掛けています。利用者様個々のしたいことを引き出し、「～がしたい」等と言えるような主体的に過ごせる環境作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の大きな窓からは、外を歩き交う人や車を見ることが出来る。玄関には、木のぬくもりを感じることのできるソファを設置している。周囲には花を植えており、和やかな雰囲気がある。管理者と職員は、十分にコミュニケーションをとっており、日ごろから様々な工夫を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員共に理念を考え自分ならどう生活したいかを考え、理念を見直し支援につながるようにしている。	事業所では、利用者の要介護状態の進行等に伴い、現状において最も適切な理念の見直しについて検討し、今後におけるサービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方や、地域の方との交流を目的に月に一度地域交流お茶会を催している。夏には夏祭りを開催し、地域の方々や、他施設との交流が出来るように努めている。	月1回、地域住民との交流会を開催している。利用者は、友人との交流を楽しんでいる。また、ボランティアの方々やダンスを楽しむなどして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物、外出時に挨拶など交わす場を通じて付き合い方や関わり方を理解してもらえるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回行い、地域の方々と意見交換が活発に出来ており、サービスの向上にいかせている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、活発に意見交換を行っている。車椅子を利用している利用者が約3割いることから、地域住民の協力を得ることができるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が会議に出席していただき質問や相談がしやすくなっている。	市担当者に、事業所の各種会議へ参加してもらっている。なんでも気軽に相談できる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一般家庭と変わりのない施設。昼間は玄関のドアを開けており、自由に玄関で涼めるようにしている。身体拘束を行わないケアが基本であるとして取り組んでいる。	利用者の自由な暮らしを支援するため、日中は玄関を開錠している。カンファレンスなどの機会を活用して、全職員が拘束の弊害について理解を深めるよう努めている。利用者が安全に過ごすことを基本に捉え、問題が生じた場合には、利用者に応じた方法を工夫し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、カンファレンスで職員同士が話し合い、ケアを振り返り言葉の虐待等に至っていないかを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には十分な説明をし、理解納得を図っている。不明なところがあればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族からの意見はなるべく直接話してもらえよう雰囲気作りに留意している。また、玄関に意見箱を設置している。外部にも相談窓口があることを説明しておりサービスを向上できるようにしている。	家族が意見や要望を表出しやすいよう、職員は日ごろから関係づくりに努めている。利用者や家族が安心して生活することができるよう、つねに傾聴の姿勢で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも言い合える雰囲気にある。職員も積極的に意見や要望を言い、可能なことは反映されている。	管理者は、全職員との話し合いの機会を設けている。出された意見は、なるべく運営面に反映するよう取り組んでいる。職員は、十分に意見交換を行っておりチームワークもよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年功序列ではなく働きにあった給与を出すことを伝え、向上心を持って就業できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の情報をみんなに見えるところに表示したり、個々に声かけをしたりしている。カンファレンス時には、研修内容の報告を受け、認知症ケアについて話し合い、再確認し質の向上に意欲を持って取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流があり夏祭りなどででは行き来があり、相互間で意見の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた段階から本人とコミュニケーションを取るようになり出来るだけ不安を取り除き馴染みの場を作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の要望をよく聞いて本人、家族とも安心して過ごし、家族の思いを受け入れながら事業所ではどういう対応が出来るかを伝え、一緒に考えていけるよう関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要とするサービスを見極め、相談内容に合わせて他の関係事業所等とも連絡を取り合いながら適切なアドバイスが出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除など一緒に出来ることを増やし、お互いが支え合える関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活や関わりが変わってしまわないように家族の方にも伝え、定期的に面会に来たり、外出も出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きたい場所、会いたいと思っていることには実現できるように支援している。家族、お友達、親戚との時間にとらわれない外出、外泊も支援している。	利用者に行きたい場所をお伺いし、神社や買い物等へ出かけている。利用者の体調や天候等の状況を踏まえ外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどのかたがホールの円卓周辺で過ごされている。仲違いしないように職員が間に入り円滑にコミュニケーションがとれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も入院先にはお見舞いに行ったり、関係者には入居時の情報を提供したりしている。家族とは季節の挨拶のはがき等でいつでも立ち寄っていたりするような関係作りを心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者本位に考え、希望に出来るだけ答えられるようにしている。利用者の言葉、表情、態度等から思いやりや意向を察し、出来るだけ希望に答えられるよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりに寄りそって接し、本人の思いの把握に努めている。家族との面会時にみせる利用者の笑顔や態度等を観察したり、日ごろの些細な表情の変化等から思いを汲みとったりして、希望に応じた支援に結びつけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを家族に記入してもらったり、入居後も必要に応じて家族等から情報を得るようにしている。また、使い慣れた物や馴染みの物を持ってきてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、自分で出来ることは自分でしていただくよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で話し合い意見交換し、本人や家族等の意見を聞き、本人がより良い暮らしが出来るように介護計画を作成している。	月1回、全職員でカンファレンスを行い、職員の気づきや意見を介護計画書に集約している。利用者の心身状況の変化を見逃すことのないよう努めて計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに簡潔で必要な情報を昼夜に分けて記入している。大事なことは申し送り事項に記入し全員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや通院の付き添い等多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、図書館、散歩、遠足等安全に配慮し、暮らしを楽しむ支援に努めている。買い物ではご自分で出来る人にはご自分で支払いをしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医や家族の希望を最優先とし、受診できるように努めている。当ホームの主治医の往診も受けられる説明もしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員が受診の付きそいをした場合には、結果を家族に報告し、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々利用者の健康管理に努めている。また介護職員からの相談にもすぐ対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。ホームで対応可能な状態になれば、家族を通じて退院できるように話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意思を尊重し、職員も出来るだけ指針に沿った希望に対応するよう取り組んでいる。	利用者と家族の意向を尊重している。医師や看護師と連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。全職員のチームケア体制で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急処置等の研修には積極的に参加するように心掛け、学んだ研修は職員全員に伝えるようにしている。実際に必要性がないと忘れてしまうので定期的に訓練をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に避難経路を歩いて実施し、問題点を職員間で話し合い、地域との協力体制の重要性を再確認した。地域の防災訓練にも参加している。	地域の防災訓練に参加している。避難時の課題等について全職員で話し合い、災害時における地域の協力体制づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導等ではさりげない言葉掛けや対応に配慮している。	家族の来訪等に、利用者の職業歴や生活歴を聞くようにしている。利用者一人ひとりの要望の把握に努めている。また、日ごろの利用者との関わりのなかで本人の思いの把握に努め、誇りやプライバシーの確保に留意した支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別での対応を心掛け、寄り添い出来るだけ本人の思いや希望を表に出せるよう配慮している。又日常生活の中で意図的に自己決定する場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた生活リズムで暮らせるように、時間配分はせずに本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、顔をアロマ水で少し香りを付けた物で拭いたり、気持ち良くなるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューをみんなで相談し、決めることから始まり利用者を主体とし調理から片付けまでその方々の能力に応じ、出来る部分をしていただくよう支援している。	調理や片づけなど、利用者一人ひとりの力に応じた役割を担ってもらっている。食事を1日の大切な活動のひとつとして捉えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は少なくならないように気をつけて、飲みやすい工夫をして支援している。個々の水分摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は歯科医師より口腔ケアの研修を受け重要性を理解し、歯磨きの声かけ、誘導を行い毎食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン記録、間隔等個々に合わせて対応している。トイレへ誘導し排泄できるように支援し、トイレでの排泄に成功する回数も増えてきており、オムツ外しに取り組んでいる。	職員は、利用者の表情と態度を観察することで排泄のタイミングを敏感に察知するよう努め、トイレ誘導に繋げている。利用者一人ひとりの排泄パターンや身体状況に応じた方法で支援している。トイレで気持ち良く排泄ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動、水分摂取等に気をつけて自然排便を心掛けているが、下剤服用時には個々の状態に合わせて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて、毎日本人の生活習慣に合わせた時間帯に入浴できるようにしている。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴を楽しむことができる体制を構築している。利用者がゆったりと安全に入浴することができるよう、2名の職員で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを記録し、日中よく動くようにし昼夜逆転の防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用を職員が把握し、副作用にも気をつけるようにしている。出来るだけ薬に頼らない生活を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話から利用者の興味がある物を見出し、楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望に合わせて散歩や買い物に行けるように支援している。また、みんなまでドライブに出かけたりもしている。	日ごろから、利用者一人ひとりの希望に応じた外出を個別に支援している。利用者の体調や天候に留意したうえで、本人と相談して行きたい場所を相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			GHあすか 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を本人に管理していただき、買い物や支払いもご自分でしていただいたり、個々の力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて自ら電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	香りとお花、また利用者が自ら仕上げた作品等で明るく居心地の良いフロア作りを心掛けている。	自然の風や花を楽しみつつ季節感を味わうことができるよう、玄関に木のソファを設置している。フロアに様々な作品を飾っている。家庭的な空間のなか、ゆったりとくつろぐことのできる居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは少人数で座れるところもあり仲のいい人同士で過ごせたり、玄関の椅子で外の空気に触れるようにも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みの物を家族に持ってきていただいたり、本人と一緒に配置を決めたりして居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者や家族と相談し、好みのものや使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。その人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーになっており、トイレにはわかりやすいように絵や文字で表示している。		